

幼児にきかせる話

お茶の水附屬幼稚園

三匹の子犬のはなし

或る所に、お母さん犬と三匹の子犬とが
ありました。或る日のことお母さん犬は町へ買物に出
かけました。

するとそのあとで、一番小さい子犬は「あゝ何
處かへ散歩して來やう」と云つて何處へ行くとも
なく、フラ／＼とあつちこつちぶらついてゐる中
に或お家の玄關まで來ました。すると何だか角ひ
ものが、何やら云つてゐる様です。よく聞いて見
ると、チツクタツクチツクタツクと云ふのです。
何の事だらうという／＼考へて見ましたけど、と
んと分りません。子犬は遂々こうきゝました。

「君は誰だい」「チツクタツク／＼／＼」とお返事
をします。

「君は誰だい。お話が出来ないのかへ」ときいて
もやつぱり「チツクタツク／＼／＼」

「何を云つてるんだい君は。君の云ふことが僕に
はちつとも分らないよ、もつとはつきり云つてく
れ給へよ」と云つてもやつぱり「チツクタツク／
／＼」

「困つたなあ、どうすればいゝんだらう」と云つ
てもやつぱり「チツクタツク／＼／＼」

子犬は遂々腹を立て、ワン／＼吠えながら角ひ
ものに飛びつきました。するとおどろくではあり

ませんか、角ひものは、ポーンポーンと二つ大きな音を出すのです。もう子犬はこわくてく一目散にとんでお家へ歸つてしまひました。そしてお兄さん犬達にみんなお話しました。すると二番目の兄さん犬は、

「それでは今度は僕が行つて見やう」と云つて出かけました。そして遂々角ひものゝあるお玄關までやつて來ました。そして

「君は誰だい」と大きなお聲できゝました。するとやつぱり「チツクタツクくくくつてだけ云ひます。も一度大きなお聲で

「よう君、僕と遊ばないかい」と云ひましたが、やつぱり「チツクタツクくくくのお返事だけ。

もう兄さん犬さんは腹を立てゝしまひ、思ひつきり大きな聲でワンと飛びつきました。すると、角ひものは、ポーンポーンポーンと三つ大きな音を出しました。二番目の兄さん犬もびつくりして、大

急ぎでお家へ歸つてまゐりました。そして今の事をみんなお話いたしました。すると今度は一番上の兄さん犬は

「それぢや今度は僕が行つてその角ひものを征伐して來やう」と出かけました。お玄關へ來るなり直ぐ大きなお聲できゝました。

「よう君、君はものが云へないんだつてね、どうして云へないんだい」けれどもやつぱり「チツクタツクくくく。」

兄さん犬は一べんで腹を立てゝしまひ、ワンと一聲大きな聲で吠えながら飛びつきました。すると今度は四つポーンポーンポーンと鳴りました。あんなに威張つて來たのに、もう兄さん犬は腰を抜かさなばかりにおどろき、へとくになつてお家へ歸つてまゐりました。丁度そこへ買物に行つたお母さん犬も歸つて來たので、三人の兄弟犬は代る代る、今のこわいお話をいたしました。

お母さん犬は

「あゝそう、それはね時計といふものですよ、便利でいゝものです。お話をしてあげますからみんないらつしやい」と云つて三匹の子犬を連れ、このお家のお玄関までやつてまゐりました。そして時計を指しながらこういふ様なお話をしてきかせました。

「ほらこの短い時計がこゝまで来ると一時で、ポーンと一つなりますよ、こゝまで来ると二時で、ポーンポーンと二つなります、こゝまで来るとあなた達がお八つをいたゞく時で、ポーンポーンポーンと三つなるのですよ、こゝまで来ると四時でポーン、ポーン、ポーン、ポーン、と四つなります、こゝへ来ると丁度お夕飯で、ポーンポーンポーンポーンポーンと五つなる様になつてゐるので、ちつともこわいものではありません。便利ないゝものですよ」

すると、今までブル／＼ふるへながら見てゐた子犬さん達は始めて安心した様に、

「あゝ時計つて云ふのはこれなの、それぢやあちつともこわかあない、こわくはない、こわくはない。」

と大きな聲でさわぎながらお家へ歸つてまゐりました。

大きな球のはなし

或るお山に一匹の大きなお猿さんが住んでゐました。或る日のこと、木に登つてあたりを眺めてゐますと、向ふのお山の方から何やら大きなものがごろ／＼轉がつて來ます。おや何だらう、と思つてそつと近寄つて見ますと大きな大きな球でした。そしてわきの方に大きな穴が開いてゐます。お猿さんは、この球の中がどうなつてゐるのか知りたくて知りたくてたまりませんので、一思ひに

その穴の中に飛び込んでしまひました。

球はお猿さんがは入つても、一向お構ひなしにやつぱりごろ／＼轉がつて行きます。お猿さんはもうこわくてこわくて、中でキャン／＼泣き叫ぶばかりでした。

遂々大きな球は貞子さんのお家の前まで轉がつて來ました。すると椽側で日向ぼつこをしてゐた猫の玉ちやんが之を見つけました。おや／＼大きなものが轉がつて來た、何だらう、おやおや、キャン／＼云ふ泣き聲がきこえるぞ、不思議だなあと思つて近寄つて見ますと、大きな大きな球、そしてわきの方には大きな穴が開いてゐます、玉ちやんも、この中がどうなつてゐるのか見たくて見たくてたまりませんので、ピョンと飛び込んでしまひました。大きな球は、玉ちやんがは入つても一向お構ひなしにやつぱりごろ／＼轉がつて行きます。玉ちやんはもうこわくて／＼たまりません

ので、ニヤ／＼ニヤ／＼泣くばかりでした。

大きな球は、キャン、ニヤ／＼泣きながら、ごろ／＼轉がつて行きます。

すると道端に遊んでゐた犬のボチさんが之を見つめました。おや、キャンニヤ／＼云ひながら何やら轉がつて來たが、扱て何だらうと思つて近寄つて見ますと大きな大きな球、そしてわきの方に大きな穴があります、ボチさんこの中がどうなつてゐるのか知りたくて知りたくてたまりませんのでやつぱりピョンと飛び込んでしまひました。

大きな球は一向お構ひなしに、やつぱり、ごろ／＼轉がりますので、ボチさんはもうこわくてこわくてたまりません。遂々ワン／＼泣き出してしまひました。

大きな球はキャンニヤ／＼と泣きながらごろ／＼と轉がつて行きます。

すると、チヨロくそこを通りかゝつた鼠の忠助さんが之を見つけました。おや、何だらう、と思つてそばへ寄つて見ると、大きな球が、キャンニヤーンくくく云ひながら轉がつて來るのです。忠助さんも中へは入つて見たくて堪りませんので、チヨロくくくと大きな穴の中へは入つて行きました。やつぱり球は相變らず、ごろくくく轉がつて行きますので、流石の忠助さんもこわくてくくたまらず、チューくくく泣き出しました。

大きな球は、キャンニヤーンチューくく泣きながら、ごろごろくくと轉がつて行きます。するとお庭でえさを拾つてゐた鶏さんが之を見つけました。何だ、キャンニヤーンチュー、くくと叫びながら大きな球が轉がつて來る、不思議だなあ、と思つてそばへ寄つて見ると大きな穴が開いてゐます。鶏さんも中が見たくて見たくて

たまりませんので、遂々飛び込んでしまひました。けれども大きな球は相變らずごろごろくくと轉がつて行きます、鶏さんも、もうこわくてこわくてたまらずコケツコツコー、コケツコツコーと泣きつゞけました。

大きな球は、キャンニヤーンチューコケツコツコー、キャンニヤーンチューコケツコツコーと泣きながら、ごろくくく轉がりつゞけました。そして遂々海邊まで來てしまひました、そしてそこにあつた大きな岩によつつかつて、ポツクリと二つに割れました。

中へは入つてゐたみんなは、やれくと思つて飛び出しました。そしてお猿さんはキャンく云ひながらお山の方へ、猫の玉ちゃんはニヤーン泣きながらお家の方へ、ポチさんはワンく吠えながら自分のお家へ、忠助さんはチューく云ひながら草の中へ、鶏さんはコケツコツコーくと大聲で歌ひながら鳥小屋の方へと、一目散に逃げてしまひました。